

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ

会報

2012 ▶ 2013
WEEKLY REPORT



奉仕を通じて
平和を

田中作次

2012-13年度
国際ロータリー会長

留萌
ロータリークラブ
会長目標

ロータリーを楽しく・
学び・奉仕しよう

会長／山本讓二 幹事／森 幹雄

プログラム

- 本日
来賓卓話「税の役割と税務署の仕事」
留萌税務署 山本署長
会員誕生日
11月14日 串橋 伸幸
- 次週予定
来賓卓話「留萌市立小中学校適正配置計画について」
寺本新教育部長

No. 2535

第19回 11月14日

出席報告

前例会

会員総数	43名
出免会員	10名
出免出席	4名
基準会員出席	22名
出席率	70.27%

前々々

第16回 10月24日

欠席会員	7名
内メイクアップ	3名
修正出席率	93.93%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

会長報告

1. 11月1日第5回定例理事会及び第3回クラブ協議会を開催致し、11・12月例会プログラムと親睦委員会からの観楓会決算書、社会奉仕委員会の特別支援児童への援助を12月から2月に延期の件をそれぞれ承認いたしました。

愛好会

麻雀愛好会 齋藤愛好会会長
麻雀大会を11月21日開催いたします。今回は何とか卓確保したいと思いますので、多くのご参加をお願いします。

幹事報告

- ・深川RCより11月例会案内と会報を受領しました。
- ・羽幌RCより11月例会案内と会報を受領しました。
- ・地区国際奉仕委員会より国際奉仕検証ツアーの参加案内を受領しました。回覧いたします。

3分間情報

会員研修委員会 高田副委員長
(『ロータリーの友』2002年12月号掲載)
その後の国際ロータリー理事会の決定に伴う変更により修正、特別週間を付記
「ロータリーの特別月間」
クラブだけでなく、ロータリアン一人ひとりが、ロータリー活動に参加するよう強調するため、国際ロータリー理事会が指定した月間のこ

第18回 11月7日(水) 天候/雨

とです。

11月 ロータリー財団月間

R I 理事会と管理委員会は、毎年11月はこの月間を遵守すること、月間中、クラブは少なくとも1つのクラブプログラムを財団のために実施する事を決定しました。月間中はロータリー財団補助金受領者その他（例えばロータリー財団国際親善奨学生など）が、クラブ例会や教育機関や地域社会の会合で、ロータリー財団について講演するよう示唆されています。財団の奨学金事業、および人道的諸事業についての知識と理解を深め、財団の推進に役立つプログラムを実施してください。

12月 家族月間

1995～96年年度ハーバート・ブラウン会長は世界平和は地域、家族から始まるとの考えを表明しました。そして1995年11月のR I 理事会において2月の第2週を「家族週間」と指定することになりましたが、2003年7月の同理事会において、2003～04年度ジョナサンBマジニアベ会長が、家族の重要性を主眼にしたことを称え、12月を「家族月間」と指定しました。これに伴って「家族週間」は廃止されました。

1月 ロータリー理解推進月間

会員にロータリーについて知識と理解を一層深めてもらい、同時にロータリアン以外の一般市民にもロータリーのことをよく知ってもらうためのプログラムを実施する月間です。

2月 世界理解月間

1905年2月23日は、ポール・ハリス、シルベスター・シール、ガスターバス・ローア、ハイラム・ショーレーの4人がシカゴで初めて会合を開いた日で、この日がロータリーの創立記念日です。よって2月は「世界理解月間」と指定されています。

この月間中、ロータリークラブは世界平和に不可欠なものとして、理解と善意を強調するクラブプログラムを行なうよう要請されています。

また、2月23日の創立記念日は、「世界理解と平和の日」と定められ、各クラブはこの日、国際理解と友情と平和へのロータリーの献身を特に認め、強調しなければなりません。さらに2月23日に始まる1週間を「世界理解と平和週間」と呼び、ロータリーの奉仕活動を強調することを決議しました。

【ミニ情報】

「応急危険度判定とは」

応急危険度判定は、大地震により被災した建築物を調査し、その後に発生する余震などによる倒壊の危険性や外壁・窓ガラスの落下、付属設備の転倒などの二次的災害を防止することを目的としています。

その判定結果は、建築物の見やすい場所に表示され、住居者はもとより付近を通行する歩行者などに対しても、その建築物の危険性について情報提供することとしています。

また、これらの判定は建築の専門家が個々の建築物を直接見て回るため、被災建築物に対する不安を抱いている被災者の精神的安定にもつながると言われています。

「応急危険度判定士」

応急危険度判定は、市町村が地震発生後のさまざまな応急対策の一つとして行なうべきものですが、阪神・淡路大震災のような大規模災害の場合には、判定を必要とする建築物の量的な問題や被災地域の広域性から行政職員だけでは対応が難しいと考えられます。

そこで、ボランティアとして協力していただける民間の建築士等の方々に、応急危険度判定に関する講習を受講していただくことなどにより、「応急危険度判定士」として都道府県が養成、登録を行なっています。



ニフニフBOX

- 会報に写真が載りました

田中、西谷(恭)会員

- 先週の例会で久しぶりにおいしいソバをいただきました また田中先生ありがとうございました

した 大切にに使わせていただきます

堀 会員

前 回	322,000円
今 回	5,000円
累 計	<u>327,000円</u>

プログラム……………

「財団月間にちなみ」

ロータリー財団委員会 ニノ宮副委員長

11月は財団月間です。ロータリー財団の使命は、ロータリアンが健康状態を改善し、教育への支援を高め、



貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにする事です。財団のプログラムは色々ありますが、今回はポリオ・プラスプログラムについて取り上げたいと思います。

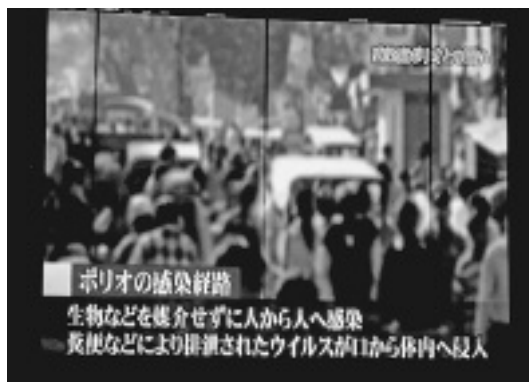
本日の例会プログラムは、ロータリーが1985年から取り組んでいるポリオ・プラスプログラムについてのDVDを見ていただきます。皆様ご存じの通り、国際ロータリーは1979年にフィリピンの子供たち600万人に、フィリピン政府と共にポリオの予防接種を実施したのが始まりです。以来ロータリーはポリオと5つの小児病（はしか、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核）の予防接種をするポリオ・プラスプログラムを展開し、この世からポリオの根絶を目指しました。

皆さんもよくご存じのマイクロソフト社のビルゲイツ氏もこのプログラムに賛同し、2009年ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団が、総額3億5500万ドルを寄付し、これを受けてロータリー2億ドルチャレンジが展開されました。

2011年ロータリーの募金総額は10億ドルを突破し、2012年インドからのポリオ撲滅を発表、残るポリオ常在国は3カ国となりました。

皆さんもロータリーの会員として財団寄付により、この遠大なる計画に参加している事を誇りに思っただけだと思います。1人で出来ない事でも、世界の仲間、ロータリアンが集まればこんな途方もない事が出来ます。ぜひ皆さん、ロータリー財団にご協力お願いします。

例会場の入口で、ロータリー財団・米山奨学会への寄付を、次週、次々週（14日、21日）の例会にて集めますので宜しくお願いします。



ロータリー財団の父 アーチ・クランプ

ロータリー財団の父と呼ばれるのは6人目のR I会長、アーチ・クランプです。「ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で慈善、教育、その他社会奉仕の分野で、何かよいことをしようではないか」と国際大会で提案しました。数ヶ月後に、この新しく誕生した基金は米貨26ドル50セントの最初の寄付金から始まりました。基金がやがてロータリー財団に発展していく、その過程の出来事です。



アーチ・クランプは、貧しい少年時代を経て、米国オハイオ州クリーブランドで実業家として大をなした立志伝中の人物です。また、アーチ・クランプはフルート奏者（14年間クリーブランド交響楽団の団員でした）やスポーツマンとしても活躍しました。アーチ・クランプは、国際ロータリーの新定款を起草する委員会の委員長として、地区を設け、地区ガバナー職を作り、年次地区大会を確立した書類の責任者でした。

また、アーチ・クランプは全ロータリークラブのために標準ロータリー・クラブ定款と細則を書き上げ、それは1915年に採択されました。ロータリーの初期において、アーチ・クランプの仕事は、ロータリーの発展に結果を築くことでした。

1912年から1913年にかけて、アーチ・クランプは、クリーブランドRC会長を務めました。友人達はアーチ・クランプを次のように評していました。「寝てもさめてもロータリー」の人間であると。当時ですら、アーチ・クランプはいつも将来に目を向け、ロータリーがよい仕事をする方法を模索していました。アーチ・クランプがロータリーにかける夢の一つを初めて吐露したのはクリーブランドRCの会長のときでした。クラブ会長としてのスピーチで、今後、クラブが多くなることが出来るように「非常時基金」を作ることを提案しました。「非常時基金」の提案は、4年後のアトランタで、「ロータリーが基金をつくり、何かよいことをしようではないか」という形で再登場します。各地のロータリアンが目先の世界の出来事に目を奪われている第1次世界大戦中にアーチ・クランプの夢が提起されたということは、アーチ・クランプの理想の素晴らしさの証と言えましょう。

第1次世界大戦のさなかにロータリー財団の原形が誕生したのです。

アーチ・クランプは次のように述べました。「我々はこの財団を今日明日の時点ではなく、何年、何世紀の尺度で見つめるべきです。なぜなら、ロータリーは幾世紀にもわたる運動だからです。」

アーチ・クランプはロータリーを不滅にする手段として基金を構想しました。「ロータリー財団は、レンガや石の記念碑を建てるものではない。たとえ大理石に碑銘を刻んだとしても、やがては崩れてしまうだろう。真鍮を使ったとしても、いつかは汚れてしまうだろう。だが、心の中に碑銘を刻むなら、そして、ロータリー精神と、神をおそれ同胞を愛する気持ちを吹き込むならば、我々が刻んだものは永遠に輝き続け、文明の続く限り、ロータリーを不滅のものとするだろう。」

1930年代には、大恐慌が世界中で影響を及ぼし始めました。その時、財団は最初の補助金を授与したのです。

「ロータリー情報マニュアル」より

例会プログラム【11月】

11月21日(水) 来賓卓話「留萌市立小中学校適正配置計画について」 寺本新教育部長

11月28日(水) 年次総会(移動夜間例会)